

大阪 あちこち

●共に学ぶ石造物の調査

平成19年、20年に「趣味の拓本教室」を実施して拓本の技術を習得し、平成21年4月に四條畷市立歴史民俗資料館を母体とした自主活動団体「なわて拓本の会」（会長辻村 護）が8名で発足しました。

学習した拓本技術を活かして市内の石造物の調査を「なわて拓本の会」、市教育委員会及び歴史民俗資料館で協力して実施することになりました。

会員は団塊の世代で、退職した人ばかりです。長年の仕事のなかで培われた能力を調査に活かしていただけたら、会員も職員もお互いに影響しあい、新たな世界が広がると思いました。職員も大型石造物の拓本は初めての経験で、皆が共に学ぶという姿勢で取り組み、多くを学ぶことが出来ました。日頃言われているボランティア活動とは一味違うものになりました。



●花より団子の自主活動 雁塔の拓本（四條畷市中野）
平成21年。まだまだ空気は冷たい春。桜が咲き乱れるなかで、手始めに高さ2mの石造物に挑戦しました。作業の合間にお団子をいただき、弁当をひろげコーヒートを沸かして仲良くワイワイガヤガヤと賑やか。明るい雰囲気なかで会員の絆が深まったようです。

市内における石造物の拓本による調査は今回が初めてです。最初は、試行錯誤の連続でしたが、しだいに満足のいく作品が出来上がるようになり、より良いものとなるよう採り直すなど技術の向上は明らかでした。

年号が記されている石造物も多く、貴重な成果を得ることができました。この調査の成果は平成22年に四條畷市制施行40周年を記念して発

行される「市史なわての歴史」櫻井敬夫著に掲載する予定です。

■道標は江戸から昭和時代にかけてのもので、京都・奈良・伊勢を表示したのが見られます。とりわけ個人の供養をかねている地藏形の道標は見ていると楽しめます。明治時代になって浪速鉄道（現在JR学研都市線）が開通すると四條畷停車場などの駅を案内するものが見られるようになり、時代を反映しています。

■十三仏は、生前に死後の冥福を願って建立されました。年号や10数名の法名が見られます。戦国時代のもので多く、四條畷市内に7基あります。一番古いもので天文24年（1555）新しいもので元和8年（1622）。おもしろいのはキリシタン時代のものが無かったことです。

*寺院や地域の区長さん、ご近所に許可を得て作業をしています。



●地藏形道標：清滝街道と東高野街道の交差点（四條畷市中野）
右ならいせ道。左京やはた道。裏面に寛政十年（1798）の年号。高さ97㎝。



●十三仏：照涌墓地（四條畷市下田原）
右側に永禄二年（1559）の年号。最下段に法名。高さ124㎝。



資料館前の道は古道東高野街道に面しているため、ごく細い道です。

- JR学研都市線
四條畷駅下車
線路沿いに忍ヶ丘方面へ徒歩10分
- 京阪電車
大和田駅下車
京阪バス四條畷駅行き 塚脇バス停下車
徒歩2分

▼お問い合わせ先▼

四條畷市立歴史民俗資料館
四條畷市塚脇町3番7号
TEL 072-878-4558
FAX 072-878-4583